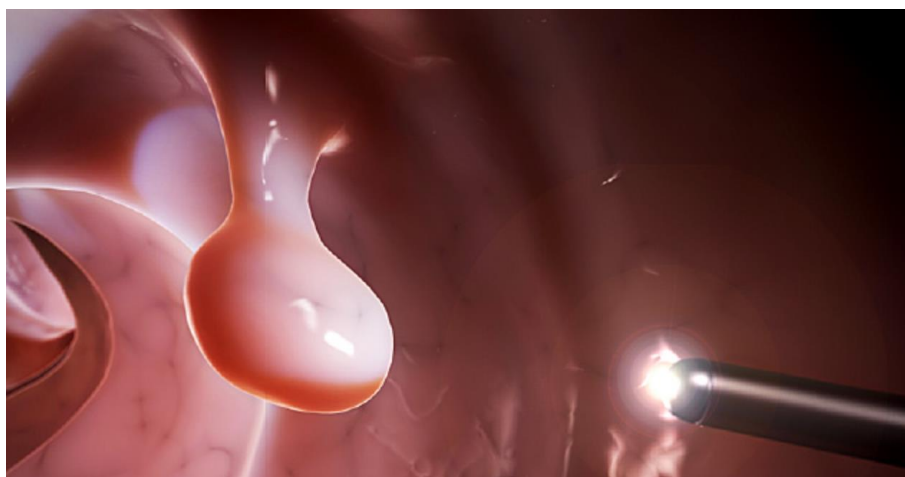


# 「大腸内視鏡検査で異常なし」 の10年後大腸がんリスク

大腸内視鏡によるスクリーニングで異常なしと判定された人の、その後の大腸癌リスクを、スクリーニングを受けていない人と比較した結果、10年後以降も、大腸癌発症と死亡のリスクが低かったという研究結果が JAMA Intern Med 誌に掲載されました。



大腸内視鏡スクリーニング陰性群の大腸癌発症リスクは、1年目が0.05、10年目は0.54、大腸癌死亡は、1年目が0.04、10年目は0.12でありました。

